

山口県労協機関紙 連合山口・労働金庫・こくみん共済coop山口推進本部・県生協連・13地区労福協

やまぐち労福協

vol.187
2022.1月号

一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

〒753-0078 山口市緑町3番29号 TEL (083) 925-7332 FAX (083) 921-1650
Eメール roufuku@orange.ocn.ne.jp 発行人:山中 守・編集人:藤山 毅

今こそ、労福協の力を！ 自主福祉運動の推進で 共助を拡大しよう！



一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

会長 中 繁 尊 範

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、県労福協の諸活動へのご支援・ご協力に心より御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、昨年の秋以降から感染者が激減し、社会・経済や暮らしの日常が戻りつつありますが、長引く感染拡大の影響により格差と貧困は拡大しており、生活困窮等、困難に苦しむ皆さんへの支援が喫緊の課題となっています。

そのためにも、私たち労福協は「共助」「公助」の充実と勤労者福祉の向上に向けた自主福祉運動をより積極的に推進し、誰もが豊かで安心して暮らせる社会を実現させなければなりません。まさに今、労福協の真価が問われています。

県労福協としましても、“生活あんしんネット”、“しゅうなん若者サポートステーション”、“パーソナル・サポートセンターやまぐち”などの支援事業を通じて、より一層、共助の拡大に努めてまいります。

そしてまた、連帯・協同でつくる安心・共生の福祉社会を実現させるためにも、労働団体や福祉事業団体、行政・NPO組織等との連携をより一層強化し、「今こそ、労福協の力を」を合言葉に、皆様方との「つながる力」で、暮らしの総合支援を始めとする労福協運動をより積極的に推進してまいります。

本年も、県労福協に対しますより一層のご支援をお願いするとともに、新しい年が皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げ年頭のご挨拶といたします。



 一般社団法人 山口県労働者福祉協議会

生活あんしんネット

しゅうなん若者サポートステーション

パーソナル・サポートセンターやまぐち



今こそ 労働者福祉運動の 出番！

中央労福協
会長 芳野 友子

新年明けましておめでとうございます。

2020年初頭から始まった新型コロナウイルスの感染拡大により、国民生活は一変し、格差や貧困、社会の分断が深刻になり、出口の見えない不安な状況が続いています。日本社会の脆弱さが浮き彫りとなった今、公的支援の強化を求め、安心して暮らせる社会にむけて継続的に取り組むことが重要です。コロナ禍の中で立ち上げた、「生活・就労応援基金(ろうふくエール基金)」には、様々な団体や個人から多くのご協力をいただき、困難を抱える人たちへの生活・就労支援活動を応援してきました。本基金へのご協力に感謝申し上げますとともに、引き続きのご理解・ご協力をお願いいたします。

中央労福協は昨年、第3期の奨学金制度改善・学費負担軽減の運動をスタートしました。第一弾の取り組みとして、奨学金返済や保護者の教育費の負担を軽減する税制支援の実現をめざし、オンライン署名を実施しました。ご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。取り組みは、始まったばかりです。誰もが安心して学べる社会に向けて大きなうねりを皆様と作り、共感できる社会運動をめざし進めていきます。私たちは、コロナ禍により行動が制限される中でも、新たな手法を取り入れるなど、創意工夫を凝らし、運動に取り組んで参りました。これまでの運動で培った経験を糧に、時代に即した運動スタイルを取り入れてこのコロナ危機を乗り越えていかなければなりません。そのためには、労福協・労働組合・福祉事業団体が連携し一丸となって取り組んでいくことが必要です。また、共助の輪を地域に広げ、SDGsがめざす「誰一人とりのこさない」持続可能な社会を創造するために、「今こそ、労働者福祉運動の出番」との気概を持ち、ポストコロナ社会にむけての労働者自主福祉活動を進めて参ります。「2030年ビジョン」の実現をめざし、ともに前進していきましょう。引き続きの皆様のご支援を申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



活力に満ちた 県づくりの 取組を加速化

山口県知事
村岡 嗣政

明けましておめでとうございます。

謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、山口県労働者福祉協議会の皆様にとりまして、飛躍の年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

また、中繁会長をはじめ、貴協議会の皆様方には、平素から、県政の推進に格別のご理解とご協力を賜りますとともに、労働者福祉の向上に向けた活動に積極的に取り組んでおられますことに対し、厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症は、昨年、二度にわたる集中対策をはじめとした継続的な感染拡大の取組に対する皆様方の多大なご協力のおかげにより、ようやく落ち着きを見せているところですが、状況を観望することなく、引き続き基本的な感染防止対策の徹底を図っていかなければなりません。

一方で、社会経済への影響を最小限に食い止め、持ち直しの動きをしっかりと軌道に乗せるため、感染症の状況を見極めながら、適時適切に、経済活動の段階的な引き上げを図っていく必要があると考えています。

私は、こうした感染症の危機を乗り越えて、山口県の未来を切り拓いていくため、デジタル化の進展や「働き方の新しいスタイル」など、感染拡大の局面で生まれた社会変革の動きを政策推進に取り込み、活力に満ちた県づくりの取組を加速化させてまいります。

どうか、貴協議会の皆様方には、引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口県労働者福祉協議会のご発展と皆様方のご健勝、ご活躍を心から祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





「変革の時代」に
適応し得る
運動の再構築を！

連合山口
会長 伊藤 正則

新年明けましておめでとうございます。

長期化するコロナ禍の影響は多くの働く仲間とその家族を直撃し、雇用と賃金・労働条件が脅かされ続けています。今こそ人権が尊重され、誰もが平等・対等で、多様性を認め合いながら公正・公平に働くことのできる「フェアワーク」の実現に向けた社会変革が喫緊の課題となっています。

また、加速するDX（デジタルトランスフォーメーション）や、地球温暖化対策として政府が宣言した「2050年カーボンニュートラル」の動向が、産業・雇用、そして社会のあり方を根本から変えていくことが想定されています。

こうした私たちを取り巻く情勢や課題を的確に捉え、多くの仲間と共有し、労働運動の再構築を一層前進させていかなければなりません。

変革する時代だからこそ、労福協運動の原点である「共生・共助」の精神が重要となっています。「働くことを軸とし、誰もが取り残されることのない安心社会」を実現させるためにも、運動の価値を共有し合い、職場から地域から共感の輪を広げるべく行動をとるに展開していきましょう。

結びに、今、私たちを取り巻く環境は、決して容易なものではありませんが、あらゆる面で、「変化」をしっかりと見据え、みんなで英知を結集し運動に更なる工夫を加えつつ、「変革の時代」を共に乗り越えて行こうではありませんか。

新しい年が、皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



全力！お役立ち宣言！！
ろうきんがめざす
「人々が支え合う
共生社会」

中国労働金庫山口県営業本部
本部長 網戸 茂

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は、中国労働金庫に対しまして格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝を申し上げます。

さて、新型コロナウイルスの世界的流行が、2年続き、国内では緊急事態宣言や蔓延防止措置の発令が繰り返され、感染リスクを伴うサービスを中心に消費が抑制されるなど日本経済への影響は甚大なものとなっており、このコロナ禍で貧困や格差の問題、社会的孤立など様々な社会問題が浮き彫りになりました。また、特に非正規労働者やフリーランスが解雇・雇止めされるなど社会的に弱い立場にある人たちにしわ寄せがいくことを、私たちは改めて認識しました。そうした状況下、当金庫としましてもこの間、福祉金融機関としての役割を発揮すべく、金融事業を通じた生活応援運動の取組み、「生活設計」「生活防衛」「生活改善」の3本柱をはじめとする「家計の見直し運動」を展開するなどの支援に加え新型コロナウイルス感染拡大により、大きな影響を受ける勤労者に「勤労者生活支援特別融資制度」等を通じて生活支援を行ってまいりました。

こうした中で、中国労働金庫は、2021年度からスタートした第7期中期経営計画は「持続可能なビジネスモデル」を構築していく3年間と位置づけ、「非対面」を強化した上で『対面』による『人』と『人』の繋がりを大切に、当金庫が自らの行動量を増やし、今まで以上に会員・間接構成員、そして、家族の期待に応えるよう取り組んでまいります。そして、「人が支え合う共生社会」の金融包摂・相互扶助・ウエルビーイングの3つのアプローチの取組みを役職員が一丸となり邁進してまいります。

本年もよろしくお願いたします。



たすけあいの輪をむすび 豊かで安心できる 社会の実現を

こくみん共済coop山口推進本部
本部長 中繁 尊範

新年明けましておめでとうございます。

皆様には、清々しい新春をお迎えのこととお慶び申し上げますとともに、こくみん共済coopの共済活動へのご支援・ご協力に心より御礼申し上げます。

さて、こくみん共済coopは、昨年も新型コロナウイルス感染症の拡大と自然災害が多発する中、お役立ち発想と共創活動に基づく新たな事業と運動の実践を進め、豊かで安心できる社会づくりの実現に向け、多くの組合員と「たすけあいの輪をむすぶ」活動を展開してきました。

とりわけ、コロナ禍における社会・生活環境への影響が長引く状況において、「たすけあう」ことの大切さや「人と人とがつながる」尊さを、改めて、再認識した一年でもありました。その意味では、こくみん共済coopとしても、組合員を起点とした対面推進を大切に、組合員との「深く」「長い」関係づくりを再構築し、その力をもって「広く」事業と運動を発展させ、“助け合いの共済生協”として、より一層、組合員のお役立ちに努めていかなければなりません。

山口推進本部としても、新たな環境変化への的確な対応と事業の回復・運動の更なる発展につなげていくべく推進体制をより強化させ、相互扶助や協同・連帯の理念に基づく労済運動の推進に役職員一丸となって取り組んでまいり所存です。

本年も、こくみん共済coop山口推進本部に対しますより一層のご支援をお願いするとともに、新しい年が皆様にとって幸多き年でありますよう、心からご祈念申し上げ、年頭のご挨拶といたします。



地域における 助け合い・協同の実践を より一層めざします

山口県生活協同組合連合会
会長理事 岡崎 悟

新年明けましておめでとうございます。

昨年は山口県生協連ならびに生協連に加盟する各生協へご支援ご協力を賜りましたことに心よりお礼申し上げます。

2021年は、新型コロナウイルスのデルタ株の感染拡大が続き病床ひっ迫の危機を迎えました。現在は、ワクチン接種もすすみ鎮静化していますが、世界各地で新たなオミクロン株の感染が広がりつつあり、変異し続けるコロナウイルスに対し新たな不安が生まれています。

2年にわたるコロナ禍の進行で、市民生活はストレスが蓄積し、経済的な困窮や差別、人権問題などの影響が心配され、貧困と格差の拡大による分断や孤立が進みつつあります。

こうした事態の中で、「誰も取り残さない」地域社会づくりの重要性が高まっています。地域全体で安心や助け合いの輪を広げていく取り組みがこれまで以上に大切になります。

山口県生協連では、各会員生協が行政や思いを共有できる諸団体、他の協同組合等とのつながり、協同を強めることで、地域のネットワークづくりを強化し、心ゆたかなくらしを支える事業と活動がさらに発展できるように、連合会としての役割を果たしていきたいと思えます。

本年も山口県生協連並びに各会員生協へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝を心から祈念申し上げます。

